

## 美祢市立病院の病床機能再編について

## 1 病床機能再編の趣旨について

## (1) 地域における担うべき役割

## ○ 今後の医療需要見込み

宇部・小野田保健医療圏の中でも、美祢市は、高齢化の進展等により高齢者の医療需要が増加する一方、総人口は減少傾向であり、2025年に向けて、市の医療需要全体としてはほぼ横ばいで推移すると推測している。

## ○ 当院の役割

市内で一般病床・療養病床を有している病院は、当院と美祢市立美東病院のみである。特に高齢者にとってアクセスの良い身近な病院として、急性期・回復期・慢性期医療の提供や在宅医療の支援等、多様な機能をもつことにより、美祢市の医療需要に柔軟に対応することが、当院の担うべき役割と考える。

## (2) 今後の目指すべき病床機能等

今後、当院の役割を果たすためには、病床機能の再編が必要であり、市外の高度急性期病院と連携・役割分担の下、急性期医療から回復期医療・慢性期医療までの地域密着・ケアミックス型の機能を目指していく。

併せて、令和4年4月に赴任した総合診療科医師2名を中心に在宅療養支援病院としての体制整備を行う。

## 【具体的施策】

- ① 高度急性期病院等への紹介患者を受け入れるポストアキュート機能の強化
- ② 在宅療養患者・施設入所者急変時に受け入れるサブアキュート機能の強化
- ③ 地域で安心して医療を受けたいと考えておられる慢性期患者の受け入れ機能の充実
- ④ 通院困難な患者への訪問診療等在宅医療機能の充実

## (3) 課題

- 通常の診療や救急患者の受入れに加え、新型コロナウイルス感染症患者の受入体制の確保・維持に必要な医療従事者の確保
- 医師の働き方改革による時間外労働規制への対応
- 将来的に持続可能な安定した運営資金の確保

## (4) 病床機能再編理由

今後さらに厳しい状況が見込まれることから、限られた医師・看護師等の医療資源を最大限効率的に活用し、持続可能な地域医療提供体制を確保するため、病床数の削減を前倒しで行い、当院の経営を強化していく。

また、このたびの病床削減は、一般病床及び療養病床とも、医療需要を考慮しながら、コロナ患者受入時を含め、より質の高い医療提供体制（看護体制）を維持できる範囲内において行うものであり、コロナ患者及び一般医療の受入体制には影響が生じないものと考えている。

なお今後は、後方支援施設等との連携をさらに強化し、対応することを考えている。

## 2 機能ごとの病床のあり方について

上記1のとおり、限られた医師・看護師等の医療資源を最大限効率的に活用し、持続可能な地域医療提供体制を確保するため、下記のとおりプランを改定する。

### ○ 現状

急性期病床89床のうち、50床を回復期病床に転換し、3床を削減

### ○ 今回改定

急性期病床89床のうち、8床を削減し、45床を回復期病床に転換  
慢性期病床を4床削減

変更前 (R2 病床機能報告)			2025 プラン (R2.1 改定)		2025 プラン (今回改定)	
区分	病床数	内訳	病床数	内訳	病床数	内訳
一般	89 床	急性期 89	86 床	急性期 36	81 床	急性期 36
		回復期 0		回復期 50		回復期 45
療養	49 床	慢性期 49	49 床	慢性期 49	45 床	慢性期 45
計	138 床		135 床	▲3 床	126 床	▲12 床

## 3 今後のスケジュール

2022年7月	病床削減（一般病床：8床、療養病床：4床）
2025年4月	急性期病床から回復期病床への転換（45床）